

PATCH ANTENNA

Patent Number: JP2002237714

Publication date: 2002-08-23

Inventor(s): SHIBAYAMA TAKAMITSU; MIYURA MASAO

Applicant(s): ALPS ELECTRIC CO LTD

Requested Patent: JP2002237714

Application Number: JP20010032617 20010208

Priority Number(s):

IPC Classification: H01Q13/08

EC Classification:

Equivalents:

Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a patch antenna whose gain is high.

SOLUTION: This patch antenna is constituted so that since a supporting member 5 constituted of a dielectric is arranged at the central part of a patch part 4, the supporting member 5 can be positioned at the part whose field intensity is strong. Therefore, the loss in high frequency can be reduced, and the maximum field intensity at the edge part of the patch part 4 can be increased. Thus, it is possible to provide the patch antenna whose gain is high.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-237714

(P2002-237714A)

(43) 公開日 平成14年8月23日 (2002.8.23)

(51) Int.Cl.⁷

H 01 Q 13/08

識別記号

F I

H 01 Q 13/08

テマコト^{*}(参考)

5 J 0 4 5

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全4頁)

(21) 出願番号 特願2001-32617(P2001-32617)

(22) 出願日 平成13年2月8日 (2001.2.8)

(71) 出願人 000010098

アルプス電気株式会社

東京都大田区雪谷大塚町1番7号

(72) 発明者 柴山 貴光

東京都大田区雪谷大塚町1番7号 アルプ
ス電気株式会社内

(72) 発明者 宮浦 正夫

東京都大田区雪谷大塚町1番7号 アルプ
ス電気株式会社内

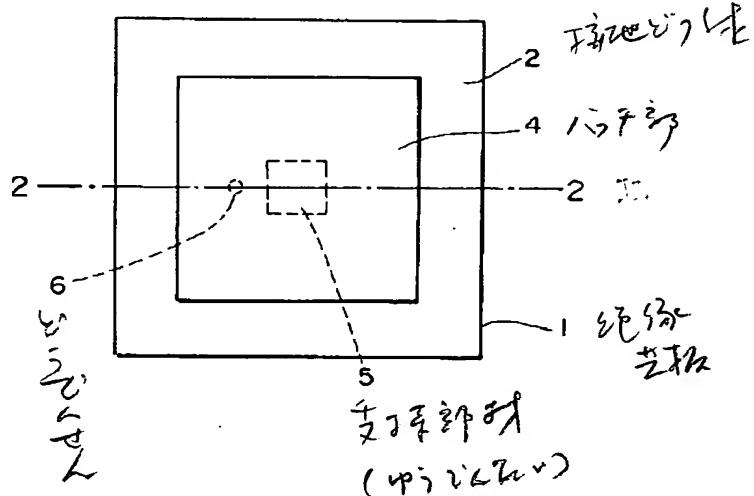
Fターム(参考) 5J045 AA06 DA10 HA06 NA01

(54) 【発明の名称】 パッチアンテナ

(57) 【要約】

【課題】 利得の高いものを提供する。

【解決手段】 本発明のパッチアンテナは、パッチ部4の中心部に誘電体からなる支持部材5が配置されたため、電界強度の弱い箇所に支持部材5が位置した構成となり、高周波の損失が小さく、従って、パッチ部4の端部での最大の電界強度が大きくなり、利得の高いパッチアンテナを提供できる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】一面に接地導体を設けた絶縁基板と、前記接地導体に対向して配置された金属板からなるパッチ部と、前記接地導体から所定の間隔をおいて前記パッチ部を前記絶縁基板に支持するための誘電体からなる支持部材とを有し、前記パッチ部の中心部に前記支持部材が配置されたことを特徴とするパッチアンテナ。

【請求項2】前記支持部材が1個の柱状、或いは筒状で形成されたことを特徴とする請求項1記載のパッチアンテナ。

【請求項3】前記支持部材は、一辺が3～8mm程度の四角柱で形成されたことを特徴とする請求項2記載のパッチアンテナ。

【請求項4】前記支持部材は、直径が3～8mm程度の円柱、或いは円筒柱で形成されたことを特徴とする請求項2記載のパッチアンテナ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、自動車等に使用して好適なパッチアンテナに関する。

【0002】

【従来の技術】従来のパッチアンテナを図5～図7に基づいて説明すると、絶縁基板51の一面には、導電バターン等からなる接地導体52が設けられると共に、この絶縁基板51と接地導体52には、上下に貫通する孔53が設けられている。四角形状の金属板からなるパッチ部54は、接地導体52上から所定間隔をおいて、接地導体52に対向して配置されている。

【0003】そして、このパッチ部54の支持は、テフロン材等の誘電体からなる4個の支持部材55がパッチ部54の外側の角部に配置され、この支持部材55によって、パッチ部54が絶縁基板51に支持された構成となっている。即ち、支持部材55は、パッチ部54と絶縁基板51に設けられた接地導体52とに接着剤等によって、取り付けられている。

【0004】また、パッチ部54には、引出用の導電線56が接続され、この導電線56は、孔53を通して、絶縁基板51の裏面側に導出されている。このような構成により従来のパッチアンテナが形成されており、例えば、四角形状のパッチ部54の一辺の長さを22mm、四角柱状の支持部材55の一辺の長さを2mm、接地導体52とパッチ部54との間隔を2mmとした状態で、その電気的な特性である利得(dB)を測定すると、7.8(dB)であった。

【0005】また、従来のパッチアンテナの電界強度(μV/m)は、図7に示すように、パッチ部54の中心部における電界強度が最も弱く、そして、中心部からパッチ部54の端部側に移行するに従って、電界強度が漸次強くなって最大値となり、この位置からパッチ部54の端部までの間は、同じ電界強度となるようなカーブ

K3を呈すると共に、パッチ部54の全体の長さが信号の波長(λ)の1/2の長さとなっている。

【0006】そして、図7から分かるように、電界強度は、パッチ部54の外周端側が一番強い状態となっているが、この外周端に誘電体からなる支持部材55が配置されているため、電界強度の強い箇所での高周波の損失が大きくなっている、パッチ部54の端部での最大の電界強度が小さくなり、その結果として、従来のパッチアンテナの利得が7.8(dB)と低い値になるものであった。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】従来のパッチアンテナは、パッチ部54の端部に誘電体からなる支持部材55が設けられているため、電界強度の強い箇所での高周波の損失が大きくなっている、利得が低くなるという問題がある。

【0008】そこで、本発明は、利得の高いパッチアンテナを提供することを目的とする。

【0009】

20 【課題を解決するための手段】上記課題を解決するための第1の解決手段として、一面に接地導体を設けた絶縁基板と、前記接地導体に対向して配置された金属板からなるパッチ部と、前記接地導体から所定の間隔をおいて前記パッチ部を前記絶縁基板に支持するための誘電体からなる支持部材とを有し、前記パッチ部の中心部に前記支持部材が配置された構成とした。

【0010】また、第2の解決手段として、前記支持部材が1個の柱状、或いは筒状で形成された構成とした。また、第3の解決手段として、前記支持部材は、一辺が3～8mm程度の四角柱で形成された構成とした。また、第4の解決手段として、前記支持部材は、直径が3～8mm程度の円柱、或いは円筒柱で形成された構成とした。

【0011】

【発明の実施の形態】本発明のパッチアンテナの図面を説明すると、図1は本発明のパッチアンテナを示す平面図、図2は図1の2-2線における断面図、図3は本発明のパッチアンテナに係り、電界強度を示す特性図、図4は本発明のパッチアンテナに係り、利得特性を示す特性図である。

【0012】次に、本発明のパッチアンテナを図1～図4に基づいて説明すると、回路基板等からなる絶縁基板1の一面には、導電バターン等からなる接地導体2が設けられると共に、この絶縁基板1と接地導体2には、上下に貫通する孔3が設けられている。なお、この接地導体2は、配線バターンの一部を構成する導電バターン等で形成しても良い。

【0013】四角形状の金属板からなるパッチ部4は、接地導体2上から所定間隔をおいて、接地導体2に対向して配置されている。そして、このパッチ部4の支持

は、テフロン材等の誘電体からなる1個の支持部材5がバッヂ部4の中心部に配置され、この支持部材5によって、バッヂ部4が絶縁基板1に支持された構成となっている。即ち、支持部材5は、バッヂ部4と絶縁基板1に設けられた接地導体2とに接着剤等によって、取り付けられている。また、この実施例における支持部材5は、四角状の柱状で形成されているが、円柱状等の柱状、或いは円筒状等の筒状でも良い。

【0014】また、バッヂ部4には、引出用の導電線6が接続され、この導電線6は、孔3を通して、絶縁基板1の裏面側に導出されている。このような構成により本発明のバッヂアンテナが形成されており、例えば、四角形状のバッヂ部4の一辺の長さを22mm、四角柱状の支持部材5の一辺の長さを4mm、接地導体2とバッヂ部4との間隔を2mmとした状態で、その電気的な特性である利得(dB)を測定すると、8.5(dB)であった。

【0015】また、本発明のバッヂアンテナの電界強度($\mu V/m$)は、図3に示すように、バッヂ部4の中心部における電界強度が最も弱く、そして、中心部からバッヂ部4の端部側に移行するに従って、電界強度が漸次強くなっている最大値となり、この位置からバッヂ部4の端部までの間は、同じ電界強度となるようなカーブK1を呈すると共に、バッヂ部4の全体の長さが信号の波長(λ)の1/2の長さとなっている。

【0016】そして、図3から分かるように、電界強度は、バッヂ部4の外周端側が一番強い状態となっているが、この外周端から離れた中心部に誘電体からなる支持部材5が配置されて、電界強度の弱い箇所に支持部材5が位置しているため、高周波の損失が小さく、従って、バッヂ部4の端部での最大の電界強度が大きくなり、その結果として、本発明のバッヂアンテナの利得が8.5(dB)と高い値になる。

【0017】また、図4は、本発明のバッヂアンテナにおける利得の特性図を示し、この特性図は、バッヂ部4の中心部に支持部材5を配置すると共に、四角形状のバッヂ部4の一辺の長さを22mm、接地導体2とバッヂ部4との間隔を2mmとした状態で、四角柱状の支持部材5の一辺の長さ(mm)を変えて、その利得を測定した結果を示すものである。

【0018】そして、この図4から分かるように、支持部材5の一辺の長さが0~8mm程度までは、利得が8.5(dB)と大きく、その位置から一辺の長さが15mm程度の間は、利得が5.5(dB)まで漸次減少し、更に、この位置から一辺の長さが20mmまでの間は、利得が5.5(dB)となるようなカーブK2を呈している。

【0019】即ち、バッヂ部4の中心部に支持部材5を配置することによって、利得が8.5(dB)と高い値

になると共に、支持部材5の一辺の長さが3~8mm程度の範囲においては、その利得の値が高く、且つ、支持部材5によるバッヂ部4の支持も確実にできるようになる。また、ここでは、四角形状の支持部材5を使用したもので測定したが、円柱状、或いは円筒状の支持部材5を使用しても、同様な結果が得られることが想定できるものである。

【0020】なお、上記実施例では、バッヂ部4を四角形状のもので説明したが、長方形状、或いは円形状のバッヂ部4を使用しても良いこと勿論である。

【0021】

【発明の効果】本発明のバッヂアンテナは、バッヂ部4の中心部に誘電体からなる支持部材5が配置されたため、電界強度の弱い箇所に支持部材5が位置した構成となり、高周波の損失が小さく、従って、バッヂ部4の端部での最大の電界強度が大きくなり、利得の高いバッヂアンテナを提供できる。

【0022】また、支持部材5が1個の柱状、或いは筒状で形成されたため、従来に比して、バッヂ部4の取付が簡単となり、生産性の良好なものが得られる。

【0023】また、支持部材5は、一辺が3~8mm程度の四角柱で形成されたため、その利得の値が高く、且つ、支持部材5によるバッヂ部4の支持の確実なものが得られる。

【0024】また、支持部材5は、直徑が3~8mm程度の円柱、或いは円筒柱で形成されたため、その利得の値が高く、且つ、支持部材5によるバッヂ部4の支持の確実なものが得られる。

【図面の簡単な説明】

30 【図1】本発明のバッヂアンテナを示す平面図。

【図2】図1の2-2線における断面図。

【図3】本発明のバッヂアンテナに係り、電界強度を示す特性図。

【図4】本発明のバッヂアンテナに係り、利得特性を示す特性図。

【図5】従来のバッヂアンテナを示す平面図。

【図6】図5の6-6線における断面図。

【図7】従来のバッヂアンテナに係り、電界強度を示す特性図。

40 【符号の説明】

1 絶縁基板

2 接地導体

3 孔

4 バッヂ部

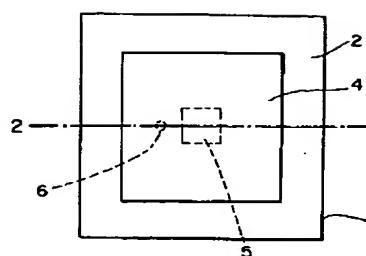
5 支持部材

6 導電線

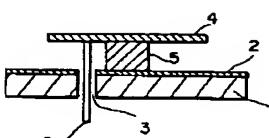
K1 カーブ

K2 カーブ

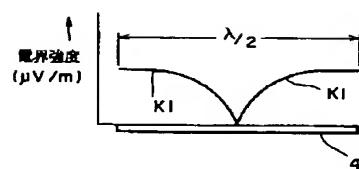
【図1】



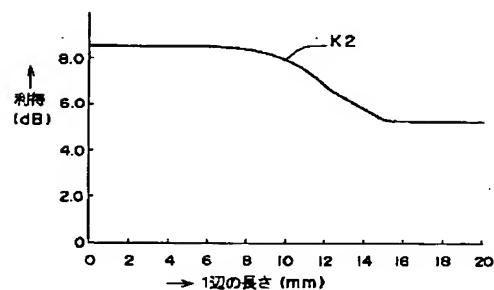
【図2】



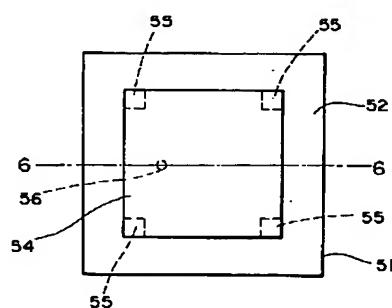
【図3】



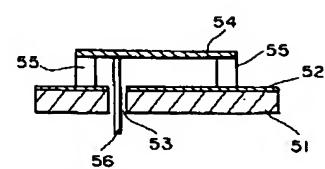
【図4】



【図5】



【図6】



【図7】

